

# 単科公立精神科病院入院中の認知症患者に おける退院阻害要因の検討 (投稿準備中)

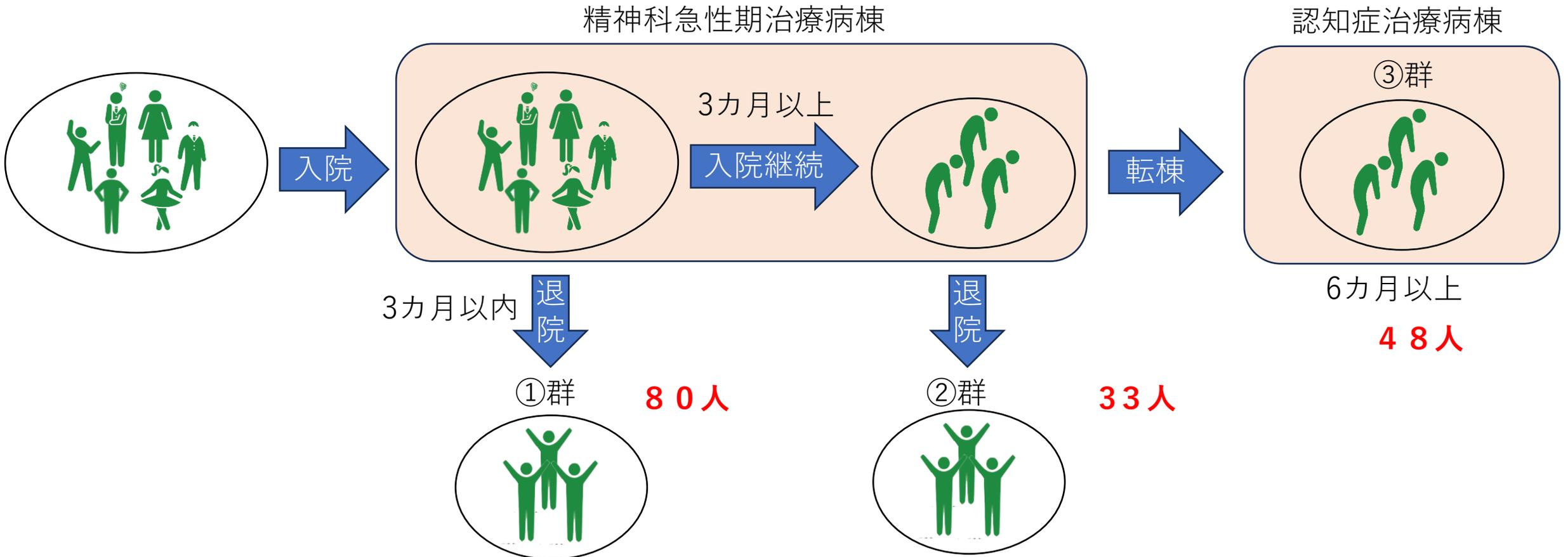
石川県立こころの病院

江端知美 竹澤翔 神川繁利 北川祐一 寺島陽子 須野貢 北村立

# 研究概念図

## 交絡要因

- ・ 属性
- ・ 退院先の未決定
- ・ 退院先の受け入れ状態
- ・ 病状、介護負担
- ・ 受け入れ家族要因
- ・ 医療依存度の高さ



# 結果 1 調査対象者の概要

Factor	Group	①早期退院群 (人)	②超過退院群 (人)	③長期入院群 (人)	p.value	
n		80	33	48		
性別 (%)	女	37 (46.2)	17 (51.5)	24 ( 50.0)	0.85	註 1
	男	43 (53.8)	16 (48.5)	24 ( 50.0)		
Fコード (%)	F0	73 (91.2)	31 (93.9)	48 (100.0)	0.314	註 1
	F1	1 ( 1.2)	0 ( 0.0)	0 ( 0.0)		
	F 3	6 ( 7.5)	2 ( 6.1)	0 ( 0.0)		
年齢	Median [25%,75%]	85.00 [62.00, 97.00]	85.00 [71.00, 96.00]	84.00 [58.00, 97.00]	0.931	註 2
NPI退院時総点	Median [25%,75%]	12.00 [0.00, 55.00]	9.00 [0.00, 30.00]	14.50 [0.00, 58.00]	0.006	註 1

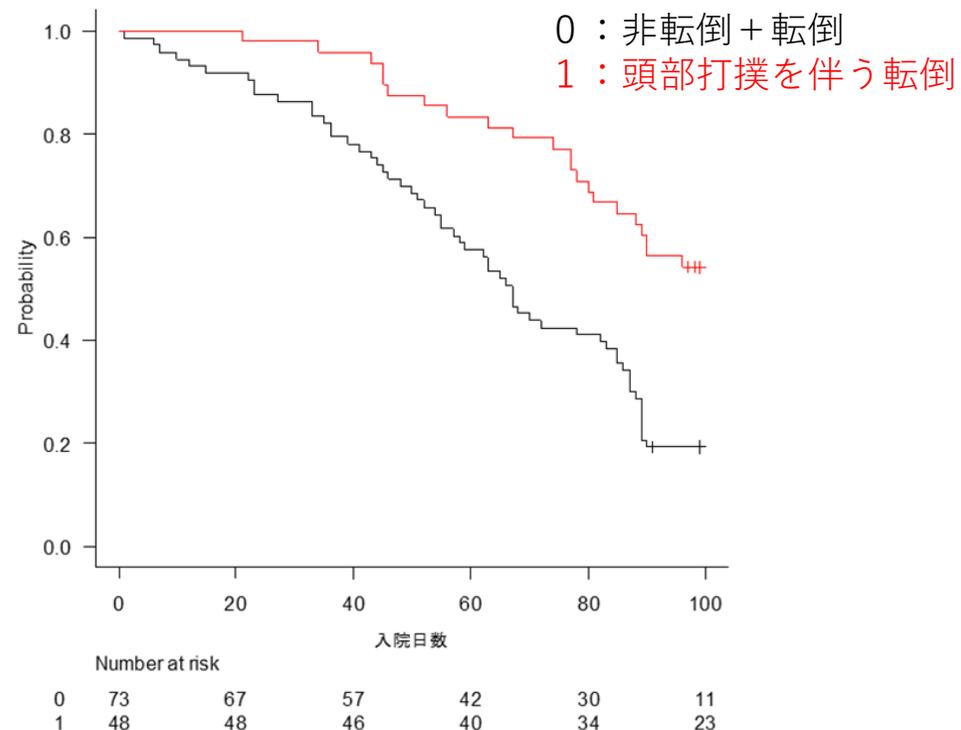
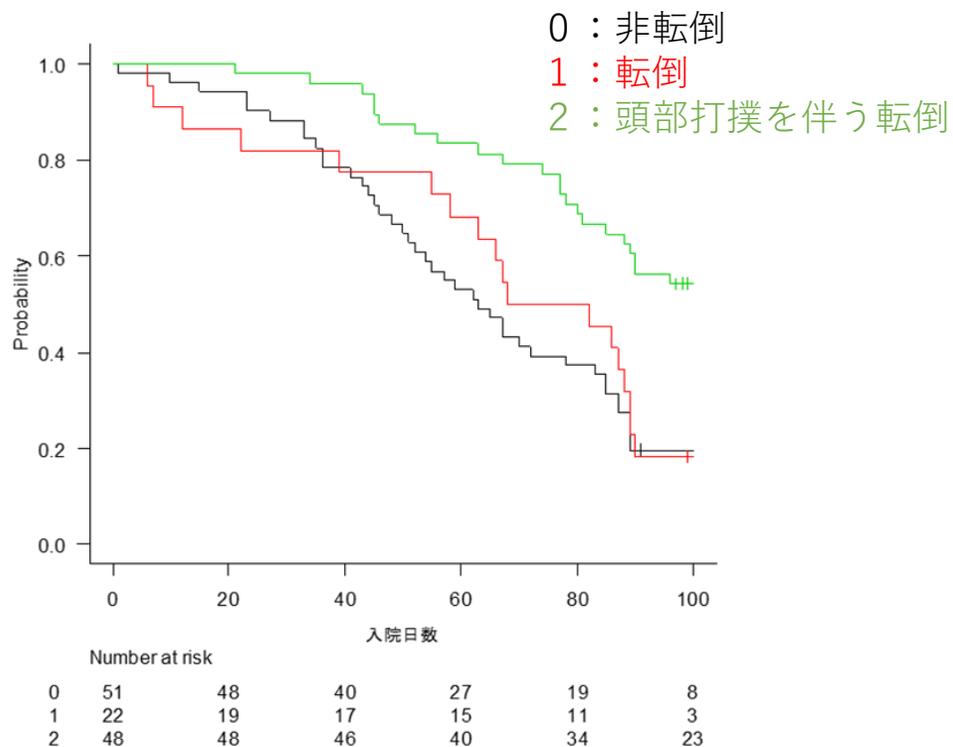
註 1  $\chi$  二乗検定 註2Mann-WhitneyU検定

# 結果 2-1 急性期治療病棟における入院長期化要因の検討

Factor	odds.ratio	p.value
(Intercept)	0.09 (0.03-0.25)	0.000035
重大転倒あり	3.97 (1.00-15.80)	0.051

ロジスティック回帰分析

交絡要因の投入には予備分析として単変量解析を行い変数の選定を行った。また、AICを用いたモデルの選択を行った。



## 結果 2-2 急性期治療病棟における転倒に関わる要因の検討

### 頭部打撲を伴う転倒に関わる要因

Factor		odds.ratio	p.value
(Intercept)		0.00 (0.00-0.08)	0.011
年齢		1.10 (1.00-1.20)	0.058
CP換算量退院処方		1.00 (1.00-1.01)	0.1
転倒回数		3.70 (2.25-6.08)	<0.001
入院中暴力既往	無し	1	0.1
	有り	2.70 (0.81-9.01)	

### 転倒に関わる要因

Factor		odds.ratio	p.value
(Intercept)		0.00 (0.00-0.14)	0.0069
年齢		1.08 (1.02-1.15)	0.0083
NPI 妄想点数		0.92 (0.84-1.01)	0.097
NPI 異常行動点数		1.09 (0.99-1.19)	0.091
CP換算量 (退院処方)		1.00 (1.00-1.01)	0.13
入院中暴力既往	無し	1	0.018
	有り	2.73 (1.19-6.29)	

### 結果 3 長期入院群における特徴の検討（ロジスティック回帰分析）

Factor		odds.ratio	p.value
(Intercept)		0.24 (0.09-0.66)	0.0059
性別	女性		0.12
	男性	2.46 (0.78-7.78)	
PC1		1.43 (0.96-2.14)	0.076
PC2		1.57 (0.94-2.60)	0.083
入院中暴力あり	無し		0.0017
	有り	0.06 (0.01-0.35)	
キーパーソンの脆弱性	良好		0.0066
	不良	15.70 (2.15-114.00)	
転倒あり	無し		0.00034
	有り	0.01 (0.00-0.21)	
頭部打撲を伴う転倒あり	無し		0.034
	有り	28.50 (1.28-636.00)	
NPI退院時(①群)/観察時(③群)総点		1.12 (1.05-1.18)	0.0002

日常生活自立度において、変数間の多重共線性を避けるために主成分分析（PCA）を実施し、主要な2つの主成分を用いてロジスティック回帰分析を行った。PC1は主に自立度Bの変動を反映しており、PC2は主に自立度Cの変動を反映している。